

# 高等部 1 ～ 3 年 生活単元学習（進路学習）学習指導案

場 所 高等部 2・3 年教室

指導者 T1, T2

## 1 単元名 シャボン洗濯工場～パート①～

### 2 単元の目標

- (1) 自分の活動内容や手順，気を付ける所が分かり，たたんだり，アイロンをかけたりする。
- (2) できあがった洗濯物を渡す際に，「どうぞ。」と渡したり，「～です。」や「～ます。」を付けた丁寧な話し方をしたりして相手とのやりとりをする。
- (3) 経験を重ねて働く喜びを感じたり，仕事とお金のつながりを知ったりする。

### 3 生徒と単元

#### (1) 生徒について

この学習グループは，1年生男子2名，2年生男子1名，女子1名，3年生男子1名から構成され，福祉的就労を希望している生徒が多い。教師の直接的な指示やきっかけを必要とする，人とコミュニケーションが上手くとれない，学習を振り返ることが難しい生徒が多い。だが，学級の係の仕事や作業班での分担作業は自分から行うことができる。金銭面に関しては，金種やお金のもつ意味を知ることが必要な生徒から，目的をもって貯蓄をしようとする気持ちのある生徒まで幅が広い。

授業では，洗濯物を干す，たたむ，ハンカチにアイロンをかけることを行った。一つ一つの活動には時間を要したり，仕上がりの不十分さは見られたりするが，出来上がった洗濯物を渡す時には，笑顔で自分のやったことに対してのうれしさを表したり，「ありがとう。」と言われることで満足感のある表情が見られるようになってきた。

#### (2) 単元について

本単元では，自分の活動に対して達成感を感じてほしい，そして学んだことを家族と一緒に，または一人でもやってみようという気持ちを育てて，生活につなげてほしいという願いがある。そこで，家庭生活においてかかせない仕事の一つであり，実習で行ってみたいと希望のある洗濯を取り上げ，生徒にとって興味・関心が高まるように，「シャボン洗濯工場」と単元名を決め，働くことと関連付けた。

授業では，依頼された洗濯物を干す，たたむ，アイロンをかける，渡すという体験的な学習を通して進めていく。洗濯物は，全部干す，たたみ終わることができる活動で見通しをもちやすい。また，洗濯機やアイロンの基本的な操作を学んだり，洗濯物に応じた，様々な干し方やたたみ方を学んだりすることができる。仕上がった洗濯物を渡す活動では，お客様とのやりとりが上手くいったり，「ありがとう。」と感謝されたりすることで，自己有用感や満足感を味わうことができると考えこの単元を設定した。また，自分がした仕事に対して給料をもらうことで，仕事とお金のつながりを経験できると考え，取り入れることとした。

(3) 指導にあたって

- ・活動内容が分かり、自分から準備を始めることができるように、道具の置き場所や活動場所を固定し環境を整え、授業全体の流れを一定にする。
- ・洗濯は、昼休みの時間を利用して進路学習のある前日にお客様から受け取り、干す所まで行く。
- ・アイロンやたたみ方の手順やきまりが分かるように、カードや手がかりとなる目印を用意する。
- ・授業の終わりには、お互いの活動を認め合うことができるように、良かった点や上手にできるようになった点を取り上げて紹介する場面を設定する。
- ・お客様との適切なやりとりができるように、渡す前に練習する機会を設け、生徒によっては話し方カードなどを用意する。
- ・仕事をしたことによるお金の流れが分かるように、【洗濯の仕事→給料をもらう→貯蓄する→好きな物を買う】という活動を設定する。

4 指導計画（総時数 12時間）

	主な活動	時数
○しゃぼん洗濯工場の始まりに向けて	・洗濯機の使い方, 干し方	1
	・洗濯物の干し方, たたみ方	1
	・たたみ方, アイロンのかけ方	1
○始動!しゃぼん洗濯工場	・洗濯工場のたたみ方と干し方	1
	・丁寧なアイロンのかけ方①(本時1/3)	3
	・丁寧なアイロンをかけ方②	2
○買い物へ出かけよう	・買い物の計画	1
	・校外学習(ショッピングセンター)	1
	・事後学習	1

5 生徒の様子及び単元で願う姿

氏名	今までの取り組みの様子	本単元で願う姿
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の見本をまねして丁寧に洗濯物をたたむことができる。アイロンでは、安全面や丁寧さに課題があるが、布をずらしながらアイロンをかけることができる。</li> <li>・相手を意識して仕事をするのは難しいようだが、届けに行き「ありがとう。」と言われると笑顔でかかわるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを見て、きまりや手順を守ってアイロンをかけたり、たたんだりしてほしい。</li> <li>・誰に渡すのかが分かり、「洗濯物ができました。どうぞ。」と言って渡してほしい。</li> <li>・仕事をして給料をもらえることを体験してほしい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の様子を見ていることが多く、次の活動へ移るまで教師の承認の合図が必要である。アイロンの経験は少なく、教師が側にいないと、電源の入ったアイロンを洗濯物の上に置いたままにしておくことがある。</li> <li>・お客様へ渡す時には、相手と目が合うと「できました。」と伝えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師と一緒にたたんだり、アイロンをかけたりして、1枚できたら報告をし、次の1枚へ自分から手を伸ばしてほしい。</li> <li>・自分から「できました。」と言って渡してほしい。</li> <li>・お客様に洗濯物を渡して、お金を受け取ってほしい。</li> </ul>

<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭では洗濯の経験はほとんど無く、洗う、干す、たたむ、といった洗濯に関する一連の活動は本単元が初めてである。アイロンの経験は何回もあり、ゆっくりではあるが丁寧に仕事ができるようになってきた。</li> <li>・人とかかわりを好み、明るく接することができる。お客様へ渡す際には笑顔で話しをして渡すことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様を意識して、一定量の仕事を完成させてほしい。</li> <li>・洗濯物を渡す時に、質問されたことに対して「～です。」や「～ます。」を付けた丁寧な言葉で受け答えをしてほしい。</li> <li>・仕事をして給料をもらえることが分かってほしい。</li> </ul>
<p>D</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段から自分の衣類は自分で洗濯をしたり、取り込んだりしていて、洗濯に関する一連の技能は、ある程度身に付いている。</li> <li>・先頭に立って活動する経験や社会生活における経験が少なく、不安を感じると自信を喪失してしまうこともある。</li> <li>・一定のコミュニケーションは図れるので、配達の際に「ありがとう。」と言われることで、ある程度の有用感を感じられていると推測できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表示の見方を覚えて、自分で判断して、洗濯やアイロンがけをしてほしい。</li> <li>・お客様へ対する態度が仕事として大切であることを知り、笑顔でやりとりをしてほしい。</li> <li>・丁寧な仕事や接客態度が給料と結び付くことを分かってほしい。</li> </ul>
<p>E</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の学校生活において、帰る前に自分のトレパンや作業着を洗濯したり、次の日にそれをたたんだりと本生徒にとって洗濯は活動の一部としてある程度定着している。早く終わらせたいために、丁寧さに欠ける傾向がある。「やけど」「熱い」という言葉に関心があり、わざと危険な行為をしようとすることがある。</li> <li>・洗濯物を渡す際の話し方では、言葉を添えずに渡したり、単語のみで伝えるなどの課題があるが、渡す相手を固定したり、繰り返し話し方を練習したりすることで、少しずつ文章で伝えるようになってきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きまりやたたむ手順を守って、アイロンをかけたたり、たたんだりしてほしい。</li> <li>・お客様へ渡す時に「洗濯物です。どうぞ。」などの正しい話し方で相手に渡してほしい。</li> <li>・仕事をして給料がもらえる経験をしてほしい。</li> </ul>

6 本時の計画（総時数12時間中の7時間）

(1) 本時の目標

- ・アイロンがけの手順や気を付ける所が分かり、ハンカチにアイロンをかける。
- ・洗濯物を渡す際に、「どうぞ。」や「洗濯物です。」などと伝えて相手とのやりとりをする。

(2) 個別の目標と本時の学習過程

\*太枠太字は本時の目標を示す。

時間	学習活動	教師の働きかけ・留意点		生徒の目標 とそれに対する教師の働きかけ・留意点				
		全体	A	B	C	D	E	
7分	1 あいさつをする。 2 会社の打ち合わせをする。 ① 本時の活動内容やお客様を知る。 ② アイロンの操作のきまりの質問に答え、かけ方の手順を見る。 ③ 合い言葉を言う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習への意欲を高めることができるようにお客様を写真カードで伝えたり、がんばる所を指示したりする。</li> <li>・活動内容が分かるように「アイロン」「渡す」などのカードを掲示する。</li> <li>・安全なアイロンのかけ方が分かるようにきまりを○×形式で質問したり、ビデオで正しいアイロンのかけ方の手本を見せたりする。</li> <li>・活動の始まりが分かるように、合い言葉をみんなで言う場面を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の担当するお客様を意識できるように、「誰のハンカチですか？」の発問をする。</li> <li>・アイロンを置く位置が分かるように、テーブルに印を付ける。 <b>ハンカチの端を意識してアイロンをかける。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の担当するお客様が分かるように、「誰ですか？」と発問をし、写真カードを手渡す。</li> <li>・アイロンの準備ができるように、手順を教師が指差しする。 <b>アイロンをかけて報告し、次のハンカチへ自分から取り組む。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備がスムーズに行えるように、アイロンとアイロン台は生徒の近くに置く。 <b>時間内に2枚のハンカチにアイロンをかける。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力して取り組もうとする意識を高めるために、合い言葉を言う係を任せる。 <b>布に合った温度を選んでアイロンをかける。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動への意欲を高めることができるように、生徒の好きな先生へ渡すことを伝える。</li> <li>・アイロンを置く位置が分かるように、テーブルに印を付ける。 <b>布をずらして端までアイロンをかける。</b></li> </ul>	
23分	3 アイロンをかける。 ① アイロンの準備をする。 ② ハンカチにアイロンをかける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様と作業量が分かるように、写真カードの張ってあるトレイにハンカチを用意する。</li> <li>・丁寧に仕上げるができるように、布を置く位置を示したり、見本を用意したりする。</li> <li>・達成感を得ることができるように、上手にできたところを称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンカチの端までアイロンをかけることができるように、アイロンの動かし方を書いたカードを用意したり、アイロン台に印を付けたりする。 <b>お客様へ「洗濯物ができました。どうぞ。」と渡す。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布を焦がさずアイロンがかけができるように、初めは教師が手を添えて一緒にアイロンをかけたり、「1, 2, 3」と数を唱えたりする。</li> <li>・自信をもって取り組むことができるように、報告ができた時には、生徒の分かる言葉「グー」「OK」で伝え、一人でできたことを称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた量をやり通すことができるように、生徒のできそうな量を調節して渡す。</li> <li>・仕上がりの良し悪しを判断できるように、「しわがないか」「端にアイロンがかけられているか」などのチェックカードを用意する。 <b>「～です。」や「～ます。」と丁寧な言葉遣いで話をし、お客様に洗濯物を渡す。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・布の種類によって温度を選ぶことができるように、アイロンの絵表示の意味を書いたプリントを用意する。 <b>笑顔でお客様に「ありがとうございます。」と言ってかかわる。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手順を守ることができるように、カードを用意したり、アイロン台に印を付けたりする。 <b>練習どおりの話し方をして、お客様に洗濯物を渡す。</b></li> </ul>	
20分 (10分)	4 お客様へ洗濯物を渡す。(洗濯物受け取りカウンター)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な言葉づかいでお客様へ渡すことができるように、話し方の手本を示したりカードを準備したりする。</li> <li>・お客様とのやりとりのポイントを意識できるように、他の生徒の良かった点を「どうぞ。と言えたね。」などと簡潔に伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様が分かるように「誰に渡しますか？」と発問をしたり、写真カードを指差ししたりする。</li> <li>・どこが良かったかが分かるように、「端までアイロンがけができました。」などと簡潔に称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して活動できるように、教師が承認の合図を送ったり、「そうだよ。」と言葉がけをしたりする。 <b>お客様へ「できました。」と言って渡す。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わりやすいように、話し方カードを用意する。</li> <li>・仕事をし終えた充実感を得られるように、自分はどうな気持ちになったかを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢や笑顔に気を付けて話しができるように、ポイントとなるカードを準備する。 <b>笑顔でお客様に「ありがとうございます。」と言ってかかわる。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しい話し方ができるように、話し方カードを用意する。</li> <li>・どこが良かったかが分かるように、「順番どおりにできました。」などと称賛をする。</li> </ul>	
(10分)	5 会社の反省会をする。 ① 活動を振り返る。 ② 友達の良かった点を知る。 ③ お給料を受け取る。 6 終わりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のがんばったことが認められることが分かるように、がんばりカードを用いて称賛する。</li> <li>・お互いのがんばりを認め合うことができるように、上手にできるようになった人をボーナスポイントとして紹介する。</li> <li>・仕事とお金が結び付くことを体験したり知ったりできるように、給料制を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこが良かったかが分かるように、「端までアイロンがけができました。」などと簡潔に称賛する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お客様が分かるように、写真カードを見て誰に渡すかを指示する。</li> <li>・活動を振り返ることができるように、「今日のがんばったことは何ですか？」などと発問をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事をし終えた充実感を得られるように、自分はどうな気持ちになったかを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事をし終えた充実感を得られるように、お客様の感想や自分はどうな気持ちになったかを聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこが良かったかが分かるように、「順番どおりにできました。」などと称賛をする。</li> </ul>	

(3) 準備物

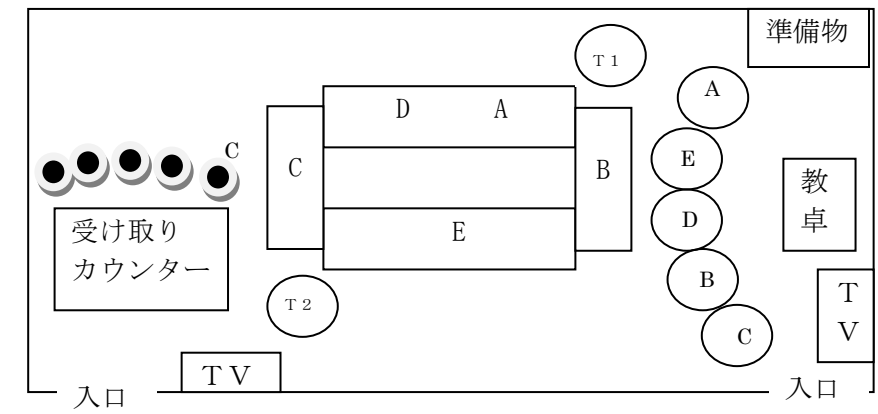
洗濯物, アイロン (5), アイロン台 (5), トレイ (5), 写真, カード, ドラム, プリント, お金, お金ケース (5)  
手順表, シール, ビデオ, テレビ

(4) 評価の観点

- 〈生徒〉・布を焦がさないことやアイロンを置く場所に気を付けたり, 端までしわを伸ばしたりしてアイロンをかけることができたか。  
・お客様へ渡す際に, 練習した話し方で渡すことができていたか。  
・渡す相手や量を決めたことで, 達成感を得ることができたか。
- 〈教師〉・手順やきまりが分かるような説明や自分で気づくことのできるような発問ができていたか。  
・相手とやりとりをするために, 話し方カードを用いた話し方の練習は, 効果的であったか。

(5) 配置図

(○は, 授業の始まりの生徒の集合場所)



(●は, お客様へ洗濯物を渡す時からの生徒の場所。  
座席は, C以外は, 決まっていない。)